

韓国語の助詞と時制の習得についての考察

石 賢敬*

A Study on the Acquisition of Korean Postpositions and Tense

Hyungoeng SOK

要旨：本稿は、韓国語の助詞と時制について、授業で用いるテキストを中心に検討することを目的としている。

韓国語の助詞は、格助詞、接続助詞、補助詞（副助詞¹⁾）とに分類する。初級レベル（KOREAN I-II）では格助詞と接続助詞を中心に学習し、中級～上級レベル（KOREAN III-VI）では副助詞の学習が主に行われ、格助詞をほかの表現と一緒に用いる用例についての学習は上級レベルで行われることがわかる。

時制については、語彙的に過去形を用いる用言、否定文や不可能表現における日本語との違いについてその例を見る。その際、語彙的な時制の違いは初級レベルの学習内容であり、中級～上級レベルでは否定文と不可能表現、さらに連体形を用いる表現における時制の違いについて学習が行われる。なお、時制の違いについては、様々な文法項目の学習時に同時に行わなければならない内容であると思われる。

Abstract:

The purpose of this paper is to examine Korean postpositions and tenses, focusing on the text used in classes.

Korean postpositions are categorized as case particles, conjunctive particles, and adjuncts. It can be seen that at the beginner level (KOREAN I-II), case particles and conjunctive particles are mainly studied, and at the intermediate to advanced levels (KOREAN III-VI), subparticles are mainly studied. Furthermore, it can be seen that learning about expressions in which case particles are used together with other expressions is carried out at an advanced level.

For tenses, we will look at examples of lexical differences between past tense usage and Japanese in negative sentences and impossible expressions. At that time, the difference in lexical tenses is the learning content at a beginner level, and at an intermediate to advanced level, learning is performed about the difference in tenses in expressions using negative sentences and impossible expressions. The difference in tense is thought to be something that must be done simultaneously when learning various grammatical items.

キーワード：格助詞、副助詞、時制

*関西学院大学国際学部常勤講師

1) 以下、副助詞とする。

様々な文法項目のうち、韓国語の助詞と時制の習得を日本人学習者の学習レベルごとに分けて検討することを目的とし、関西学院大学国際学部の〈KOREAN (I-VI)〉授業のテキストである『이화 한국어 梨花韓国語』(日本語版)に出てくる助詞と時制を中心に検討する。

まず、〈KOREAN I〉のテキスト『이화 한국어 梨花韓国語 1-1』に出る助詞と時制について、文法項目として学習する助詞の順に沿って見ることにする。時制については、テキストに出る例文を中心に日本語との相違点をまとめることにする。

1. 『이화 한국어 梨花韓国語 1-1』の助詞

1-1 -은/-는 (～は)

初出助詞である主題を表す助詞「～は」に対応する「-은/-는」は、先行する体言に付いて特別な意味を加える副助詞である。第2課の p.37では、「김수진은/마이클은/요코는 キムスジンは/マイケルは/ヨーコは」のように名前とともに使う練習をして自己紹介をすることからはじまり、第7課の p.115では次の例のように対照を表す副助詞として学習する。

- (1) 나는 안경을 썼습니다. 형은 안경을 안 썼습니다.
私は眼鏡をかけました(かけています)。兄は眼鏡をかけていません。
- (2) 마이클은 키가 큼니다. 요코는 키가 작습니다.
マイケルは背が高いです。ヨーコは背が低いです。

1-2 -이/-가 (～が)

主格助詞である「-이/-가」は、第3課の文法項目である。

- (3) 요코가 전화합니다. 요코가電話します。
(4) 책이 많습니다. 本が多いです。
(5) 영화가 재미없습니다. 映画が面白くないです。

一方、この助詞の内容については、第2課の「-이/-가 아닙니다 (～ではありません)」の名詞の否定表現を学習する際、すでに学習している。しかし、否定表現の学習に助詞「-이/-가 (～が)」が必要であれば、助詞の学習が先に行われるほうが内容の理解においても効率的であると思われるので、学習する内容によっては、否定表現を学習する前にこの助詞の学習を先に行うこともよいと思われる。

『韓国語文法 1997』では、助詞について次のようにまとめる。

助詞は、主に体言に付いて格を決め、文の中で言葉の間の文法的な関係を表し、体言のほかに副詞、副詞格助詞、連結語尾(活用語尾)、ほかの助詞にも結合する。その機能によって、格助詞、接続助詞、副助詞に分類される。

格助詞とは、先行する名詞にある資格を持たせる助詞で、主格、目的格、保格、冠形格、副詞格、呼格助詞がある。

表1 助詞 (『韓国語文法 1997』²⁾)

分類		形態
格助詞	主格助詞	-이/-가 -께서
	目的格助詞	-을/-를
	保格助詞	-이/-가
	冠形格助詞	-의
	副詞格助詞	-에 -에 게/-한테 -께 -에게서/-한테서 -(으)로
	呼格助詞	-아/-야/-(이)여
接続助詞		-와/-과 -하고 -에(다) -(이)며 -(이)랑
副助詞		-은/-는 -도 -만 -뿐 -까지 -마저 -조차 -부터 -마다 -(이)야 -(이)나 -(이)나마

1-3 -을/-를 (～を)

目的格助詞とは、文中で目的語であることを表す助詞である。

- (6) 요코가 음악을 듣습니다. 요코가音楽を聴きます。

2) 『이화 한국어 梨花韓国語 1-1』の学習項目は太字で示す。

(7) 마이클이 한국어를 공부합니다. 마이클
가韓国語を勉強します。

1-8で見る(20-22)は、「会う」という動詞に
助詞「～に」を用いる日本語に対して、韓国語で
は目的格助詞を用いる例と、「좋아하다 好きだ,
잘하다 上手だ」という用言に目的格助詞を用い
る韓国語の例をあげている。

1-4 -에 (～に)

副詞であることを表す副詞格助詞は、先行する
名詞や叙述語によって様々な意味に使われるた
め、その種類も多様である。また、主格助詞や目
的格助詞との異なる点は、省略において制限があ
ることである。

(8) 요코 씨가 어디에 갑니까? 학교에 갑니
다.
ヨークさんはどこに行きますか。学校に
行きます。

(8) の助詞「-에」は、〈方向〉を表す助詞と
して学習している。また、「-에」は第4課で
〈位置〉を表す助詞として、第5課では〈時間〉
を表す助詞として学習する。次の(9-10)でその
例をあげる。

(9) 신문이 어디에 있습니까? 소파 옆에 있습
니다.
新聞はどこにありますか。ソファの横にあ
ります。
(10) 몇 시에 일어납니까? 6시에 일어납니
다.
何時に起きますか。6時に起きます。

時間を表す語彙には助詞「-에」が必ず必要で
あり、この点に日本語との相違が見られると言え
る。例えば、「朝、ご飯をたべました。」の「朝」
は、「아침에 朝に」のように助詞「-에」を使
わなければ、「朝ご飯」という意味に捉えられる
のである³⁾。

(11) 여자 친구에게 목걸이를 주었어요. 彼女に

ネックレスをあげました。

(11) の助詞「-에게/-한테」は、『이화 한국어
梨花韓国語 1-2』の第8課の文法項目で、人や動
物を表す名詞に付いて行為の対象であることを表
す。ここでは、尊敬助詞である「-께」の学習も
行われる。

1-5 -하고, -과/-와 (～と)

これらは接続助詞として分類される助詞で、文
中で二つの単語を対等につなぐ機能を有する。会
話では「-과/-와」より「-하고」のほうをよく使
うということが、この二つの助詞の違いであるこ
とも学習する。

(12) 책상과 의자가 있습니다. 机と椅子があり
ます。
(13) 시계하고 전화가 있습니다. 時計と電話が
あります。

1-6 -(으)로 (～へ、～に)

(14) 오른쪽으로 가세요. 右へ行ってください。
(15) 공원에 버스로 가요. 公園にバスで行きま
す。
(16) 일본으로 해서 호주에 가면 교통비를 줄일
수 있어요.
日本を経由してオーストラリアに行くと交
通費が節約できます。
(17) 태풍으로 인해 농작물의 피해가 심각하다.
台風によって農作物の被害が深刻である。

(14) の助詞「-(으)로」は、〈方向〉の意味を
含む助詞「～へ(右のほうへ)」であるが、「～
に」と訳すこともある。(15) は『이화 한국어
梨花韓国語 1-2』で学習する〈手段〉の意味を表
す助詞である。

『이화 한국어 梨花韓国語 2-2』で学習する
(16) は、助詞「-(으)로」と「해서」を一
緒に使い、「～を経由して、～を通して」という意
味になる表現である。

3) ただし、「지금 今、어제 昨日、오늘 今日、내일 明日」という語彙には助詞「-에」を使うことができないということも大事な学習内容である。

また、『이화 한국어 梨花韓国語 4』で学習する(17)は、助詞「-(으)로」と「인해⁴⁾」を一緒に使い、「～によって」という意味の表現である。

1-7 -부터 -까지 (-から~まで)

時間的な出発点と到着点を表す副助詞である「-부터 -까지」は、空間的な出発点を表す副助詞「-에서」と同時に学習することで、その違いについての習得も可能であると思われる⁵⁾。

(18) 9시부터 1시까지입니다. 9時から1時までです。

(19) 오사카에서 서울까지 비행기로 왔어요.
大阪からソウルまで飛行機で来ました。

1-8 -에서 (~で)

場所を表す名詞の後に付いて動作が行われる場所を表す副詞格助詞である。

(20) 보통 어디에서 친구를 만나요? 普段どこで友だちに会いますか。

(21) 중국 음식을 좋아해요. 中国料理が好きです。

(22) 공부를 잘해요. 勉強がよくできます。

1-3 で一度説明している目的格助詞を用いる動詞類は次のようになる。

만나다 会う 타다 乗る 좋아하다 好きだ・好む 싫어하다 嫌いだ・嫌う
잘하다 できる・上手だ 못하다 できない
잘생기다 格好いい 알다 わかる・知る
모르다 わからない・知らない

1-9 -도 (~も)

あるものが他のものと同じであること、あるいは他のものにあるものが含まれるという意味を持ち、名詞、助詞、副詞、動詞の語尾に付けることができる。助詞「-에서 ~で」に「-도」が付いた例である 3-3 の(34)は中級レベルの学習内容である。

(23) 구두를 샀어요. 그리고 가방도 샀어요.

靴を買いました。そしてカバンも買いました。

1-10 -만 (~だけ、~さえ、~ぐらい、~ばかり、~ほど)

副助詞である「-만」は、次のようにまとめることができる。

①ほかを除外し、ある特定なものとして限定することを表す

②副詞や連結語尾の後に付いて、前の内容を強調する意味を表す

③主に「하다 する/못하다 できない/같다 同じだ」と共に用いて、

その程度を比較する意味を表す

副助詞「-만」は、先行する体言に特別な意味を与える助詞で「それだけ」という強調の意味を表し、名詞、助詞、副詞、動詞の語尾に付けることができる。名詞に付く場合、主に主語と目的語に付いて主格助詞と目的格助詞は省略する。日本文法でいう「取り立て助詞」に対応する助詞で、名詞に直接付く点だけ見ると、格助詞と変わりがないように思われる。

(24) 저만/요코만/마이클만 私だけ/ヨコだけ/マイケルだけ

寺村(1992)は、「助詞のなかには、格助詞と同じように名詞に直接接続する形で使われることもあるが、名詞に格助詞が付いた後とか、動詞や形容詞の連用形の後とか、あるいは接続助詞の後とかいった文中のさまざまな位置に現れるものがあり、そのさまざまな位置に現れるということが、それらと他の種類の助詞とを区別するシンタクティックな特徴になっている。」と「取り立て助詞」についてまとめている。

2. 『이화 한국어 梨花韓国語 1-2』の助詞

初出助詞は「~に」に対応する「-에게/-한테」で、1-4 ですであげている。

4) 「인하다 因る」という用言の連用形である。

5) 場所の出発点を表す助詞「-에서」は、『이화 한국어 梨花韓国語 1-2』で学習する。

2-1 -보다 (～より)

二つ以上を比較するとき用いる助詞である。

- (25) 한라산이 설악산보다 높아요. 漢 [山]が雪嶽山より高いです。

2-2 -의 (～の)

冠形格助詞に分類される「-의」は、名詞と名詞を結び名詞句とする所有格助詞のことである。文中で省略することが多いが、省略できない場合もある。

- (26) 이건 누구의 여권이에요? これは誰のパスポートですか。

助詞「～の」に当たる「-의」についてはまず、日本語ほど使う頻度は高くないことと、その発音が「-에」となることを学習する。

(26) の「이건」は、「이것은」の縮約形で、ここでほかの助詞の縮約形の学習も一緒にまとめることで学習内容を向上させることができる。

2-3 -(이) 나 (～か)

二つ以上の項目を羅列するか、その中の一つを選択することを表す助詞である。

- (27) 점심에 보통 뭘 먹어요? 비빔밥이나 김치찌개를 먹어요.
お昼に普通何を食べますか。ビビンバかキムチチゲを食べます。

『이화 한국어 梨花韓国語 2-1』では、満足ではないが十分な程度を表すときに用いる助詞の例として (28) をあげている。

- (28) 시간이 있으면 우리 차나 한잔할까요?
時間があれば一緒にお茶でもしましょうか。

また、「-(이) 나」が「～でも、～も、～くらい」などの意味を表す表現としては、『이화 한국어 梨花韓国語 2-2』で学習する。

- (29) 올해도 벌써 반이 나 지났어요. 今年ももう半分が過ぎました。
(今年ももう半分も過ぎてしまいました)
(30) 하루에 몇 시간이나 자요? 一日に何時間ぐらい寝ますか。

2-4 -에게서/-한테서 (～から)

動作や状態の出発点となる相手を表す助詞で、尊敬助詞は「-께로부터/-께」となる。『이화 한국어 梨花韓国語 1-1』で学習する時間的な出発点を表す「-부터」や空間的な出発点を表す「-에서」とともに、あるいは人や動物を表す名詞について行為の対象であることを表す助詞「-에게」の学習の際に一緒に習得することも考えられる。

- (31) 회사 동료한테서 들었어요. 会社の同僚から聞きました。

3. 『이화 한국어 梨花韓国語 2-2』の助詞

『이화 한국어 梨花韓国語 2-1』では、文法項目の助詞の内容が取り上げられていない。また、ここからは取り立て助詞に当たる副助詞の学習が行われる。

3-1 -마다 (～ごとに、～たびに、～おきに、～の都度)

体言に付いて「すべて」の意味を表し、時間を表す体言の後に付いて「該当する時期に一度ずつ」の意味を表す副助詞である。

- (32) 사람마다/월요일마다/4 년마다
人によって/月曜日はいつも (毎週月曜日) /4年おきに

3-2 -밖에 (～しか)

体言や副詞語の後に付いて「そのほかには」という意味を表す副助詞で、寺村 (1991) は、必ず述語の否定形で結ばなければならないという点で、取り立て助詞のなかで特異な地位を占めるとしている。

- (33) 하나밖에/세 명밖에 一つしか/3名しか

この副助詞を用いる副詞である「밖에 思いがけなく、思いの外」と用言の後に付いて「それ以外にはほかの方法がない」の意味を表す「-ㄴ밖에 ～するより仕方がない、～するしかない、～するのが当然だ」についても学習することで、中級レベルにあわせた効率の良い学習も可能となると思われる。

3-3 -에서도/-에서만 (～でも、～でだけ)

二つの助詞を一緒に用いる助詞で、日本語とその使い方の差はないと言える。

(34) 한국 사람들은 보통 어디에서 결혼식을 해요?

韩国人は普通どこで結婚式を行いますか。
예식장에서도 하지만 호텔이나 교회에서도 결혼식을 해요.
結婚式場でもしますが、ホテルや教会でも結婚式を行います。

(35) 이 약은 약국에서만 살 수 있어요. この薬は薬局でしか買えません。

3-4 -아/-야 (～ちゃん)

人を呼ぶときに使う呼称助詞である「-아/-야」は、ぞんざいな表現を学習する時に一緒に身につける内容である。テキストの会話で、「셀리야サリー」と出ている。

4. 『이화 한국어 梨花韓国語 3-1』の助詞

4-1 -만큼 (～同じくらい、～ほど)

体言の後に付いて、比較の対象とほぼ同じ程度であることを表す副助詞である。

(36) 도쿄는 서울만큼 추워요. 東京はソウルと同じくらい寒いです。

(37) 이 도시만큼 아름다운 곳은 없을 거예요.
この都市ほど美しいところはないでしょう。

(36-37) で見るように、肯定文では「～同じくらい」に、否定文では「～ほど」と訳すことの学習も行われることがわかる。

4-2 -(이) 라도 (～でも)

様々な可能性のうち、最善ではないものを選択することを表す副助詞である「-(이) 라도」は、

(39) のように副詞に付いた形での使い方もある。

(38) 이 빵이라도 먹을래요? このパンでも食べますか。

(39) 오전에 바쁘면 오후에라도 연락을 주세요.
午前中に忙しければ午後にでも連絡をくだ

さい。

5. 『이화 한국어 梨花韓国語 4』の助詞

5-1 -조차 (～さえ、～も、～までも)

名詞や助詞に付いて「～までも」の意味で期待外な状況や意外な状況を強く表す副助詞である。なお、命令形や勧誘形にはあまり用いられない。

(40) 사람이 너무 많아서 입장조차 못했어요.

人が多すぎて入場さえできませんでした。

(41) 둘이 사귀는 것을 친한 동료들조차 몰랐대요.

二人が付き合っていることを親しい同僚たちさえ知らなかったそうです。

5-2 -에 따라 (～によって)

(42) 계절에 따라 피는 꽃이 다르다. 季節によって咲く花が違う。

(43) 그날따라あの日に限って/오늘따라今日に限って

(42) は、助詞「-에」に「따라⁶⁾」が付いて「～によって」という意味を表す表現になる。「あの日、今日」のような名詞に直接付いた場合は、(43) のように「～に限って」という意味になることも上級レベルの学習内容となる。

5-3 -기는커녕 (～はおろか、～するどころか)

「-기는커녕」は、名詞に「-은커녕/-는커녕」が付く表現で、(44) は動詞「만나다会う」を名詞化し「만나기 会うこと」とした上で「-는커녕」が付いた表現である。(45) は「택시 タクシー」という名詞に付いた表現である。

(44) 자주 만나기는커녕 바빠서 얼굴도 못 봐요.
よく合うどころか忙しくて顔も見れません。

(45) 택시는커녕 버스 타고 다닐 돈도 없어요.
タクシーどころかバスに乗るお金もありません。

6) 「따르다 従う」の連用形である。なお、「～によって」に対応する「-(으)로 인해」と「-에 따라」についての説明も必要であろう。

6. 時制について

時制とは、ある時点を基準に事象の時間的位置を表す文法範疇である。事象を点として見、基本的には発話時を基準にして、その点が発話時のことであるのか前であるのか後であるのかを問題にする形式である(寺村 1984)

沖森他(2006)は時制について、「一般には、発話時を基準にして、それ以前を過去、発話時を現在、それ以後を未来とする時間の前後関係を表す言語表現のことで了解されている」としている。

韓国語の時制は、「-았-/었-」を用いて事件時(動きや状態が表す時点)が発話時より先行する過去時制⁷⁾と非過去時制(現在時制と未来時制)に分類する。

非過去時制に分類する現在時制は事件と発話時が一致する時制で、動作述語である場合は「-는-/ㄴ-」を用い⁸⁾、形容詞や指定詞の場合は基本形(原型)のままで表す⁹⁾。また、動詞の冠形詞形(連体形)である「-는¹⁰⁾」と形容詞や指定詞の冠形詞形(連体形)である「-은/ㄴ-」という語尾を用いる¹¹⁾。未来時制は、事件時が発話時より後の時制で「-겠-」や「-을 것 이-」を用いて¹²⁾「내일 明日」のような副詞によって表現さ

れることもある。冠形詞形(連体形)は、「-을」を用いる¹³⁾。

このような韓国語の時制の内容を確認した上で、テキストに出てくる日本語と韓国語の時制の違いを以下の例をあげて分類すると、次のようにまとめることができる。

- ①語彙によって異なる時制
- ②否定文における時制
- ③不可能表現における時制

まず、(1)に該当する内容は、(47-48)と(54)である。韓国語の場合、「답다 似る、결혼하다 結婚する、잘생기다 格好いい」という用言は過去形を用いて表現するのに対して、日本語は「～ている¹⁴⁾」となる。(48)の「요코씨 친구들은 모두 결혼했어요?」は直訳すると、「ヨコさんの友だちはみんな結婚しましたか。」で過去形である。なお、(54)の「안씨는 어떻게 생겼어요? ヤンさんはどんな感じですか。」は、「생기다 生じる、できる」の過去形を用いる例で、形容詞に付いて人や物の見た目から判断したことを表し、「～に見える」という意味になる。

(2)に該当する(46)「형은 안경을 안 썼습니다. 兄は眼鏡をかけていません。」は、直訳すると

7) 過去時制は、3通りにまとめられる。

- (1) 単純過去：ある動作や状態が過去の時点に行われたことを表す。
어제 친구를 만났어요. 昨日友達に会いました。
- (2) 過去の状態：過去に起こったことの当時の状態を表す。
날씨가 좋았다. 天気が良かった。
- (3) 完了：過去に起こったことの状態が現在も持続していることに焦点がある。
봄이 왔다. 春が来た。

一方、「-았었-/었었-」を用いる場合も過去時制とすることもあるが、発話時より前に起きて現在と断絶した事柄を表現することで「-았-/었-」との相違を表す。

- 8) 아이들이 지금 운동장에서 야구를 한다. 子どもたちが今グラウンドで野球をしている。「지금」のような副詞によって表現することもある。
- 9) 승현이는 눈이 참 예쁘다. 승현이는 내 동생이다.
スンヒョンは目がとても綺麗だ。スンヒョンは私の妹だ。
- 10) 나는 운동장에서 야구를 하는 아이들을 보고 있다.
私はグラウンドで野球をする子どもたちを見ている。
- 11) 눈이 참 예쁜 저 아이는 내 동생인 승현이다.
目がとても綺麗なあの子は私の妹のスンヒョンだ。
- 12) 「-겠-」や「-을 것 이-」は、推量や意志のような話者の態度を表す表現でもある。
- 13) 떠날 사람은 빨리 떠나야 해. 発つ人ははやく発たなければならない。
- 14) この「～ている」を直訳すると、「-아-/어-/해 있다」という動作の後の持続を表す表現である。

「兄は眼鏡をかけませんでした。」となり、韓国語では否定文の過去形を用いるのに対して、日本語は「～ている」を否定している。同じく (49)、(51)、(53) も否定文においての相違を見せている例である。

(3) の不可能表現における時制で両語の相違を見せる例は、(50)、(52)、(55) である。(50) は、「済州島に行ってみましたか。」という質問の答えとして「行ったことはありません」という経験の表現を用いるが、「行ってみました」を不可能の表現にした韓国語の「못 가 봤어요.」は、直訳すると「行ってみることが出来ませんでした。」である。これは、「～てみる」を用いる表現と「～たことがある/ない」という表現の学習時にも取り扱わなければならない文法項目であると思われる。

また、連体形を用いた表現で日本語と異なる時制を使う (56-57) の例がある。(56) を見ると、「버스를 놓치는 바람에 늦었어요.」のように韓国語では動詞の連体形 (非過去時制の現在) である「-는」を用いるのに対して、日本語では「バスに乗り遅れたせいで遅れました。」と過去の連体形を用いることで、連体形を用いた表現でも時制の相違があることがわかる。

6-1 『이화 한국어 梨花韓国語 1-1』

- (46) 형은 안경을 안 썼습니다. 兄は眼鏡をかけ
ていません。
(47) 요코 씨는 누구를 닮았어요? ヨーコさん
は誰に似ていますか。
(48) 요코 씨 친구들은 모두 결혼했어요?
ヨーコさんの友達はみんな結婚しています
か。

6-2 『이화 한국어 梨花韓国語 1-2』

- (49) 생일 선물을 샀어요? 아니요, 아직 사지
않았어요.
誕生日のプレゼントを買いましたか。いい
え、まだ買っていません。
(50) 제주도에서 가 봤어요? 아니요, 아직 못 가
봤어요.
済州島に行ってみましたか。いいえ、まだ

行ったことはありません。

- (51) 동아리에 가입했어요? 아니요, 아직 안
했어요.
サークルに入会しましたか。いいえ、まだ
入会していません。

6-3 『이화 한국어 梨花韓国語 2-1』

- (52) 어디로 갈 거예요? 아직 못 정했어요.
どこに行くつもりですか。まだ決めていま
せん。
(53) 베트남에서 겨울 옷을 안 가져왔어요.
ベトナムから冬の服を持ってきていません。

6-4 『이화 한국어 梨花韓国語 2-2』

- (54) 얀 씨는 어떻게 생겼어요? 얀 씨는 모델
처럼 멋있게 생겼어요.
ヤンさんはどんな感じですか。ヤンさんは
モデルのようにかっこいいです。

6-5 『이화 한국어 梨花韓国語 3-1』

- (55) 인사동요? 많이 들어 봤는데 전 아직 못
가 봤어요.
仁寺洞ですか。よく聞きますが私はまだ行
ったことはありません。
(56) 왜 이렇게 늦었어요? 버스를 놓치는 바람
에 늦었어요.
なぜこんなに遅れましたか。バスに乗り遅
れたせいで遅れました。
(57) 약속 시간을 착각하는 바람에 늦었어요.
約束の時間を錯覚したせいで遅れました。

7. まとめと課題

韓国語の助詞は日本語の助詞とほぼ同じ機能を持ち、副助詞「-밖에 ~しか」が否定文で使われることもその一つである。日本語の「会う、乗る」が助詞「～に」を用いることや韓国語の「좋아하다 好む・好きだ、싫어하다 嫌う・嫌いだ」などの動詞が助詞「-을/-를 ~を」を用いることのように、用言によっては決まった助詞を使うということも両語に共通することである。

また、助詞「-(으)로」は「～へ」という方向を表す意味を初級レベルで学習し、中級～上級レベルになると「-(으)로 해서 ~を経由して」、

「-(으)로 인해 ~によって¹⁵⁾」のようにほかの表現と一緒に使う「-(으)로」について学習することもわかった。

時制においては、韓国語が過去形を用いる表現に対して日本語は「~ている」を用いるという違いについての学習が必要であり、上級レベルになるほど時制の違いの頻度も高くなることがわかった。否定文と不可能表現において対応しない両語の時制の違いについては、今後の研究課題にした

参考文献

- 沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾 (2006) 『図解日本語』
沖森卓也編著 (2010) 『日本語概説』 朝倉書店
沖森卓也・曹喜澈編著 (2014) 『韓国語と日本語』 朝倉書店
生越直樹編 (2002) 『対照言語学』 東京大学出版会
金水敏・今仁生美 (2000) 『意味と文脈』 岩波書店
金水敏ほか (2000) 『時・否定と取り立て』 岩波書店
杉本孝司 (1998) 『意味論 1』 くろしお出版
寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろ

しお出版

寺村秀夫 (1992) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』 くろ

しお出版

寺村秀夫編 (1987) 『ケーススタディ 日本文法』 おうふう

益岡隆志 (1997) 『複文』 くろしお出版

山田孝雄 (1936) 『日本文法学概論』 宝文館

서정수 (1996) 『현대국어문법론』 한양대학교 출판원

성광수 (2005) 『한국어 표현 문법』 한국문화사

성기철 (2007) 『한국어 문법 연구』 글누림출판사

이익섭・채완 (1999) 『국어문법론강의』 학연사

임호빈・홍경표・장숙인 (2007) 『日本人のための韓国語文法』 연세대학교 출판부

최현배 (1961) 『우리말본』 정음사

テキスト

『이화 한국어 梨花韓国語 1-1』 (KOREAN I)

『이화 한국어 梨花韓国語 1-2』 (KOREAN II)

『이화 한국어 梨花韓国語 2-1』 (KOREAN III)

『이화 한국어 梨花韓国語 2-2』 (KOREAN IV)

『이화 한국어 梨花韓国語 3-1』 (KOREAN V)

『이화 한국어 梨花韓国語 3-2』 (KOREAN VI)

『이화 한국어 梨花韓国語 4』 (KOREAN VI)

15) 5-2 であげている「-에 따라 ~によって」も、上級レベルで学習する内容である。